

平成 29 年度第 1 回倉吉市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 平成 29 年 5 月 25 日（木）午後 3 時 00 分
- 2 場 所 市民応接室
- 3 出席者 石田市長
福井教育長
田民委員 宮近委員
仲田委員 福井委員

会 議 の 経 過

- 1 開 会 午後 3 時 00 分

2 市長あいさつ

みなさんこんにちは。今日は教育委員の皆様にはお忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。去年の後半は地震に追われた形での半年になってしまいましたけれども、今年の天気も回復をしてみずは順調に新学期を迎えていただいたのではないかと考えているところであります。皆様のご尽力に心から敬意を表したいと思っております。ただ、まだまだ学校、公共施設を含めて復旧を急がないといけない状況が多々ありますので、お互いに努力をして一日も早い復旧に向けてがんばっていきたくて思っておりますので引き続きよろしくお願ひします。

その一方で、全国的にみますと子どもが巻き込まれる様々な事件、事故というのも多発しております。保護者会長が関わっているようなとんでもない事件も見受けられるところでありまして、登下校中の子どもたちの安全ということも改めてしっかりと考えていかなければいけない。そういう時代だと改めて考えさせられるなというふうに思ひます。

今日はそのような深刻な、当面するような問題があるということではありませぬけれども、今年度の考え方なり、教育委員さんの考え方なりを整理させていただければなというふうに思っております。短時間になろうかと思ひますけれども、意見交換できればと思っておりますのでよろしくお願ひします。ありがとうございます。

3 教育長あいさつ

先ほど、市長からありましたように、昨年度は地震で、後半はその対応に追われたというふうな感じがしております。しかし、地震が起きてみたときに改めてこの 5 年の間、50 億を

かけて学校を耐震化していただいております。そのおかげで子どもたちの生命が守れた。これは本当に感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

それ以降につきましても、地震を一つの学びの場としようとして学校現場も取り組んできておりました。それなりに子どもたちもしっかりと考えていたというところがあるかと思えます。ただ、28年度のそういった反省点を生かしながら29年度に向けての努力をしていきたいと思えますし、29年度だけでなく次を見通した、もう少し先の学校の在り方も考えていく必要があるだろうと考えております。

そういったことにつきまして、意見交換ができればと思っておりますのでよろしくお願ひします。

4 報告事項

(1) 平成 28 年度倉吉市教育行政の点検及び評価について

石田市長 それでは順次、説明をお願いします。

事務局長 (資料に沿って全体説明)
 (各担当課、資料に沿って説明)

石田市長 地震のことがたくさん出ているので、そのことについてはみなさんご存じかと思うのですが、皆さんの方で何かございますか。

福井教育長 物的な被害がありました。人的な被害がなかったのが幸いだったと思います。物的な被害については、随時、予算要求していきますのでよろしくお願ひします。

石田市長 不登校、いじめが増えたというのは何か原因分析ができていますか。

学校教育課長 増えた理由といたしまして、やはり、教育的に配慮を要する児童が多くなっておりますので、その影響でというのがありますし、家庭状況のこともあります。

石田市長 ある意味、この総合教育会議ができた一つの要素でもあるので、このことについては、少し重点的に目配りをしていきたいということですのでよろしくお願ひします。

5 協議事項

(1) 平成 29 年度倉吉市教育委員会の重点施策に基づく実施計画について

石田市長 それでは次の協議事項について事務局から説明をお願いします。

教育総務課長 (資料に沿って説明)
 (各担当課、資料に沿って説明)

石田市長 いじめについてだけでも、最近報道を見ていると教員によるいじめというのが目立つような感じがする。いろんなことがあるなということ的前提に、目配りをしっかりするように。特に校長先生や管理職の皆さんはしっかり教員にも目を光らせてください。あまり監視するようなことになってもよくないとは思いますが、どういう指導がされているのかということを確認

把握しておくことは必要かなと思いますのでよろしく申し上げます。

今年の統廃合の問題というのは、なかなか一朝一夕にかたがつく問題ではないのですけれども、ひるまずたゆまずやっていかないといけないというふうに思っております。

ただ、えいやで決断すればできるというようなものではありませんので、やはり地域の理解を認めつつ精力的に対話していくということでお願いしたいと思います。

福井教育長 いじめの認知件数については、県内の数よりも並べてみると倉吉市は多いです。ということは、これはいじめなんだよというふうに感覚的にとらえている数が多くなっております。

石田市長 表に出そうということが教育長さんのお考えにあったわけだから、陰湿な形で取り扱わないようにするということがいいことです。

福井教育長 ただ、数が多ければいいというものではないですから。

石田市長 そこははき違えてはいけないのだけれども。

福井教育長 生活をしている以上、ありうるトラブルというのは出てくるわけで、それをどう解決したかが大事なのであって、そこは認識を一緒にしようかなと努力しています。確かに市長が先ほどおっしゃったように、教員の資質の向上ということも大事なことだと思いますので、留意してやっていきたいなと思っております。

石田市長 それから、県が今、スポーツによる地域づくり、スポーツを一つのツールとしたまちづくりに積極的に取り組んでおられる。倉吉の場合は今まで駅伝なんかで賑わっているわけで、市の方向とはあっていると思います。

うちの場合は特に自転車競技場があるということで、その優先を生かしてというのが今の動きだと思います。

それにスポーツライミングが加わってきて、もう少し幅が広がってきた。これを契機にその前後のスポーツイベント、それを生かしていこうということなので、これについてはできるだけ積極的にやっていきたいなという気持ちがあります。

もちろん費用も掛かることですから、そこは応分の負担をしながらということになってくると思います。県と十分協議をしながら、まだ決まったわけではないので、誘致できればこの間のインターハイのようにいい影響も出てくるのではないかと思います。積極的に取り組んでいってもらいたいなと思います。

福井教育長 なんとかオリンピック選手が誕生してくれるといいですけど。

石田市長 そうですね。それと、ボクシングの世界チャンピオンが出てくるいいですね。これは、別の世界ではあるのですが。

スポーツというのはみんなで盛り上がれるという非常にいいツールだと思うので、積極的に活用してもらったらと思います。

それから、文化財関係、発掘などは公共事業とのすりあわせをしながらできるだけ頑張ってやってほしいなと思います。伝建の修理は、文化庁も最大限協力するといってくれていますので、交付金をいただきながら活用していきたい。それでも負担のあることだから、ご本人さんにも頑張ってもらわなければならないのだけれども。

文化財課主査 所有者を説得していきます。

石田市長 はい、そうしてください。

福井教育長 今の状況を説明してください。

文化財課主査 伝建地区に特定物件が 214 件あるのですが、4 月末現在で工事が終了したものは、14 件あります。率にして 6.54%です。着手しているのは 33 件です。今、事業化できているのは 100 棟近くありまして、随時募集しておりますが、次の募集で着手できるのは 9 月交付決定になります。問題は左官屋さんです。

福井教育長 職人さんは、今現在、広島や岡山、関西からも来ておられる。

文化財課主査 初期の段階では職人さんも休日出勤でかかっていたのですが、現在は少しペースダウンしております。

石田市長 行政も休日は休むよう指導している。非常時のやり方をいつまでも続けることはできないし、どこかで平常モードに戻していかなければいけない。それはやむを得ないところです。

福井教育長 しかし、そのような手が上がってきたのはよかったなと思います。

石田市長 これから、公共事業に出すものもあるだろうから、集ってしまう。そこは業界の中で上手に調整してもらわなければならない。公共事業の工程調整も必要になってくるかもしれない。公共事業だけ先に終わればいいというわけではない。そこはバランスを取ってやっていかないといけない。

それから、博物館はまだ、美術館でバタバタする時期ではないとは思いますが、県立美術館を視野に入れてこれからどういう動きをしていくのがいいのか、県とも情報交換しないといけないと思うのですが、戦略を考えていく必要があると考えております。これは、博物館だけの問題ではないと思いますので関係者と相談しながらやっていきましょう。

博物館長 県下のネットワークの強化ということで 6 月には話し合いを始める予定もございますし、文化活動もみんなで盛り上がるようにがんばっていきたいと思っております。

石田市長 付帯意見がついているので、その付帯意見の扱いがどういうふうになっていくのかということもよく見ておかなければいけないと思います。

福井教育長 どうですか。島根県立美術館と比べて。

委 員 非常にお金をかけていますね。施設は、サントリー関係企業を中核とした株式会社 S P S しまねさんが指定管理者として受けておられると聞いています。ですから、サントリーが所有している美術品も展示されると聞いています。美術館と図書館というのは憩いの場。今まで、見ればいいのかそういう

世界ではなくて、触れ合ったりそういう時代になってきておりますので、そういうコンセプトでやっていくということが大事なのではないかと思いません。

松江は夕日のスポットとなっておりますので、ゆっくりと食事をとりながら、イタリア料理を食べておられる方もあります。やはり、場所を提供すると車が止まっていますね。観光客の方とか利用されます。

先ほど、教育長とも話しましたが、琴桜の銅像が写真撮影のいいスポットとなっております。中国の方や韓国の方、特に日本の方もそうですけれども。

石田市長
委 員
博物館長

ごく日本的ですからね。

今見るといいなど。力強さが地元としては本当に誇らしく思います。

おっしゃるように鑑賞の場、学べる場だけではないと思っておりますので、交流の場という形でも市民の方に浸透していきたいなと思っております。

石田市長

ただ、県は PFI ということをかなり念頭に置いておられるので、その PFI の事業者がどういう提案をしてくるかによってかなりこの美術館のいき方というのが変わってくる可能性があると思います。その辺はよく見ていかないといけないと思います。

福井教育長

やっぱり美術館だけでなく、倉吉にある野外彫刻というのはみなさんが見てびっくりされますからね。なんでこんなすごいものがあるのというね。そういった点では、先週、奈良に行った折に藪内左斗司さんの「せんたくん」と一緒に写真撮ってきました。藪内さんの作品もここに2つほどありますよといったら、びっくりされました。意外と知られませんが、そういうところを拾いながら、スカイツリーの原点もありますし。

委 員

やはり、PFI になっても県や市がコンセプトはこういうものだというものはっきり出さないと、それで選定ですから。大手と地元とか施設を運営する目的会社を作ってやりますから、地元がしっかり画をかかないといけない。

石田市長

枠組みはそうでしょうね。仕様書を作る段階でしっかりと反映させておかなければいけない、というようなことも視野に入れてやってください。

福井教育長

成徳小学校の前でカメラを向けられる方が結構多いのですが電線が邪魔になる。何とかならないですか。

石田市長

あの間だけでも電線の地中化になればいいのですが。

福井教育長

あそこはスポットですよ。打吹山が後ろにあるし、赤瓦でいいですよ。

委 員

美術館ができるということで市全体が美術館のように美しくてスポットがあつて楽しんで帰る。美術館に行って帰るのではなくて美術館と周辺をずっと見て回って、一日美術を楽しんで帰るといふ、そういう流れができないと倉吉に来た意味がないと思います。

福井教育長

そういう点では社はどうですか。山上憶良の石碑がありますが。

委 員

石碑を見に来ている方はちょこちょこあります。ですが、あれだけでは物足りないですね。来られてもちょっと物足りないと思います。もう少し魅力

がいますね。

- 委員 石碑はかかっているのですか。歴代選者の第1回目のものとか。
- 福井教育長 第1回から5回までの分をまとめて作るというのは今製作中です。たくさんいただきましたので。
- 委員 木もきれいに切ってください、明るくなって、それもよかった。あとはやはり、もう少し何か魅力が発信できればと思います。
- 委員 写真スポットを作るというのはいいかもしれない。
- 委員 大山も見えるしね。
- 委員 写真スポットと食べ物ですか。ちょっと足を止めて、しばらくいることのできるものとかないと、見てさよならになってしまう。
- 委員 確かに団体だとそういう文化的なことも、ここの美術館にも来てそちらにも行ってもらうように地元で説明をして回るようなことを地域でできれば、まだまだいいのかもしれない。
- 石田市長 歴史ボランティアみたいな方も必要かと思います。
- 生涯教育課長 公民館の方でもそういう意識は持っておられるようで、単にみんなが学ぶだけではなくて次に生かそうよということを意識していただいております。
- 石田市長 そんなようなことも考えてよろしくお願いします。それでは次の議題に移りたいと思います。

(2) 倉吉市立小学校適正配置推進計画について

- 石田市長 それでは適正配置についてお願いします。
- 学校教育課長 (資料に沿って説明)
- 石田市長 何人参加しておられますか？
- 学校教育課長 昨日は30人ちょっとです。
- 石田市長 共通認識を持ってもらうということですね。
- 福井教育長 参加された方は結構満足しておられて、自分の意見が言えたということでした。
- でも、やはり、相手の方の立場も考えてみななければいけないのではないかという意見も出ておりました。そういったところがいいなという感じがしました。この手法は、一つ今日の会は良かったという感想がありました。
- 石田市長 こういうのがやりたいのです。
- 福井教育長 また、対決姿勢になってしまうかどうかは地域によってはあるかもしれませんが、入れていこうかなと思います。
- 石田市長 みなさん、どういう問題意識を持っておられますかということ、自分で考えてもらう。こういうことが重ねていけるようになるといいですね。
- 福井教育長 資料で言うと10ページにあるような具体的な各校区の動きの数もいれておりますので、8ページの明倫、成徳、灘手もこうやって見てみますと32年、男女比をみております。人数だけではなく。

石田市長 男女がえらく偏るね。

福井教育長 そういったことも判断材料として提示しながら課題は何か考えてほしい。

石田市長 学校によって偏ってずいぶん出ますね。トータルで見ると大体半々なのに、不思議ですね。それに学年によっても全然違いますね。

福井教育長 33年、灘手は女の子1人であとは男の子ばかりと結構差がありますから。31年度は女の子ばかりとか、子どもも大変だと思います。

委 員 いずれにしても寂しい数字ですね。

福井教育長 一緒になるとバランスが取れていいのですが。

石田市長 そうですね。いいバランスですね。

こう言ったものも判断材料として考えていただければありがたいなと思います。

この前市長会の時に学校統合の話をしたのだけれども、うちは統廃合に向けてやっていますと言ったら、うちは統合しないことにしましたと。それは、やはり無理だと。地域の人がみんな反対してしまって。では、どのくらいの規模で残すのですかと聞くと、1学年5人、10人で残すという判断をしておられた。まあ、いろいろな事情があるのでしょうけれども。

福井教育長 先週、奈良の全国教育長会議でも、やはり市長選の争点となってしまって200票の差で今まで推進していたものがひっくり返ったという事例の報告がありました。吉野川市はずっと計画通りやっていて10年スパンでやる。第1期を10年かけてやって、第2期はその成果を見ながら次の10年でやるというふうな計画をたてておられました。どういう結論になるにしてもこれは避けて通れない。

委 員 実質、小鴨は協議会の参加、誰が行くのかとっておられたのですけれども、僕たち教育委員会の方が出してくださいと出してください。上小鴨さんは気持ちの段階では作らない。そうすると協議会そのものが成立しなくなる。何とかそこを統合する、しないではなくてなんとかこの9月には設けたいなと思います。

福井教育長 そういう意味で、これは持つて出る皆さん方の意見の材料となりますので工夫はしてもらったのですけれども、それをきちっと理解していただけるかどうかですね。5人のうち保護者の方は何とかお願いします、で出していただけるとは思いますが、もしもダメでしたらこちらからこの方をお願いしたいと思いますがという言い方をしなければいけないのだろうなと思います。時間はかかるだろうとは思いますが丁寧にやっていきたい。

石田市長 せっかくですから何か言っておきたい、報告しておきたい、頼んでおきたいということはありませんか。

委 員 先ほどの定例教育委員会で学校教育課長から話が出ましたが、いじめとか不登校の問題については、しっかりと3日とかルールを決めて、とにかく教育委員会も関心を持っているよ、先生も関心をもってね、学校現場で生徒、

児童に関心をというルールの中でやっていくのは非常にいいことではないかなと思います。それから生徒と話をするときには、先生方も一対一だと感情的になってしまいますので複数で生徒と会うというのが一番いいのかなと思います。あまり多いと威圧になるのでそのあたりは上手にやっていただきながら一人一人が育って行ってほしいと切に願います。

石田市長

見捨てられ感が子どもたちに出ないように留意してほしいと思いますし、親御さんは両面で動きが出てくるかもしれないので、プラスマイナス両面でそこは上手に対応してもらって子どもさん本人を大事にしましょう。

6 閉会 午後4時5分 終了